

平成 2 6 年 2 月 定例会

請 願 ・ 陳 情 参 考 資 料

(平成 2 6 年 2 月 2 0 日)

生 活 環 境 部

受理番号 受理年月日	所 管	件名及び提出者	現 状 と 県 の 取 組 状 況
24年-27 (H24.11.26)	生活環境部	湖山池高塩分化事業の中止 と見直しについて 鳥取市 鶴崎展巨	<p>○湖山池の汽水湖化の取組みについては、湖内の環境改善が進まない状況が続き悪臭など生活環境も劣悪な状態となっていたことから、周辺住民の方々や農業者、漁業者等関係者の皆様から広く意見を聞きながら継続的に話し合いを重ねて方針決定されたものであり、これら住民意見を踏まえつつ、モニタリング結果に注視しながら、湖山池会議で十分協議しながら進めていく。</p> <p>【取組の状況】</p> <p>◇H26.2.5に湖山池環境モニタリング委員会を開催し、塩分管理や生態系モニタリング状況等の報告を行い、「①夏場の水質管理の徹底、②水質改善の抜本対策、③淡水性生物の保全対策の強化、魚類・貝類のモニタリングの強化、④科学的知見に基づいた生態系保全策の実施、⑤当該委員会の意見の行政施策等への反映」との意見を受けた。これらの意見について、湖山池会議で検討を進めていく。</p> <p>◇H26.2.13に湖山池会議を開催し、塩分濃度を26年4月に2,000mg/L以下とする取組みの状況及び湖山池環境モニタリング委員会での意見を受け、適正な塩分濃度管理手法、専門家や住民など幅広い意見を踏まえた意思決定のあり方等を次回会議に向け検討することを確認。 (H25.12.23時点 4,440 mg/L⇒H26.2.13時点 2,700 mg/L台へ)</p> <p>【これまでの経緯】</p> <p>○平成24年1月に農業者の同意等を受け、湖山池会議で汽水湖化の方針を決定し、同年3月に汽水湖化(2,000~5,000mg/Lの塩分濃度)を開始。</p> <p>○周辺ため池等の調査(H24.11)においてカラスガイ等の淡水貝類の生息を確認し、保護に着手。</p> <p>○汽水湖化後は、アオコやヒシの大量発生はなく、周辺の自治会・役員アンケート(H24.9)では、95%が「汽水湖化の取組みを継続、または数年間は経過観察すべき」と回答しており、周辺住民の多くは現在の生活環境の改善を歓迎している状況。</p> <p>○平成25年3月にカラスガイ生息環境の保全に向け、発見したため池内の成貝・稚貝及び魚類等の調査を実施するとともに、汽水湖化の影響を受けない水域に避難・移植していたハスを福井地区の湖岸に淡水域確保のため移植を完了。</p> <p>○平成25年5月には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湖山池将来ビジョンの理念・目標の達成のため、鳥取市と共同で「湖山池将来ビジョン推進計画(第3期湖山池水質管理計画)」を策定。 ・塩分濃度に加えて、溶存酸素(DO)測定テレメーター化による連続観測体制を確保・強化しつつきめ細かな水門操作に着手。 <p>○生態系保全のため、有識者で構成する環境モニタリング委員会をH24.9月に設置して、継続的に開催(H24年度中に3回、H25.7.22)。</p> <p>○将来ビジョン達成に向け、市民等で構成する「湖山池将来ビジョン推進委員会」をH25.3月に設置し、開催(H25.7.28)。</p> <p>○希少野生動・植物の保全のうち、カラスガイについて、発見したため池で保護を図るため、インガイ類有識者の意見をもとに生態調査を実施するとともに、人工繁殖の研究を実施中(H25.12)。</p> <p>○塩分濃度・溶存酸素等の状況がリアルタイムに確認できる水質観測地点の増設(4地点)、今後の水門形式のあり方検討及び改修検討に資する水質シミュレーションを実施中(H25.12)。</p>